

伊勢市教育研究所

<http://www.ise-mie.ed.jp/~kenkyusyo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

E-mail: 伊勢市教育研究所

kyo-kenkyu@city.ise.mie.jp

教育支援センターNEST

kyo-nest@city.ise.mie.jp

平成27年7月13日発行

伊勢市教育研究所

伊勢市小俣町元町540番地

たより



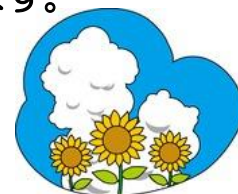
研修講座のお申込み受付中

伊勢市教育研究所では、今年の夏も、授業づくり、特別支援教育、生徒指導、学力向上、学級づくり、ICTスキルアップなど、多様な研修講座を開催します。毎年大人気の師範授業、専門性の高さで著名な講師による講演、すぐに実践に役立てていただける講座など、ぜひ御参加いただきたい講座ばかりです。皆様の御参加、お待ちしております。

◆◆夏季休業中教職員研修講座一覧◆◆

詳しくは、伊勢市教育研究所HP 各講座案内をご覧ください。

お申し込みは、伊勢市教育研究所までお願いします。



開催日	講座内容（演題等）	講師	会場
7/30(木)	人権力を養う ～想像力を広げる視点～	辛淑玉 人材育成技術研究所所長	いせトピア
7/22(水)	理科授業で鍛える言語力	佐々木 昭弘 筑波大学附属小学校教諭	伊勢市立小俣小学校
7/27(月)	子どもの読みの力を伸ばす授業 づくり（授業づくり：国語）	青木 伸生 筑波大学附属小学校教諭	伊勢市立二見小学校
7/29(水)	算数好きの子どもを育てる 授業づくり	細水 保宏 明星大学客員教授	伊勢市立明野小学校
8/3(月)	特別支援の視点からみる ユニバーサルデザインインの授業 -特別支援教育は科学だ-	山田 充 堺市立日置荘小学校教諭	ハートプラザみその
8/5(水)	チームで取り組む生徒指導	水野 治久 大阪教育大学教授	ハートプラザみその
8/7(金)	発達につまずきのある子ども の輝かせ方	川上 康則 青山特別支援学校	いせトピア
8/7(金)	今求められる本物の道徳授業	佐藤 幸司 山形県朝日町立宮宿小学校教頭	ハートプラザみその
8/17(月)	確かな学力の身につく 安心・安全の学級集団づくり	河村 茂雄 早稲田大学教授	ハートプラザみその
8/20(木)	ドキドキ！わくわく！理科実験	三重県立伊勢高等学校 理科担当教員	三重県立伊勢高等学校

8/21 (金)	国語授業のユニバーサルデザイン 全員が楽しく 「わかる・できる」授業づくり	桂 聖 筑波大学附属小学校教諭	ハートプラザみその
8/21 (金)	子どもを育む学級づくり	金大竜 大阪市立千本小学校教諭	ハートプラザみその
8/22 (土)	絵本・紙芝居の力	永牟田 律子 童心社編集部	伊勢市小俣図書館
8/25 (火)	伝え合う力を社会科で伸ばす	寺本 潔 玉川大学教授	伊勢市小俣総合支所
8/25 (火) 8/27 (木)	I C T環境整備 書画カメラ・プロジェクタ台の製作	東浦 道範 厚生中学校教頭	伊勢市立厚生中学校
8/26 (水) 8/27 (木)	I C Tスキルアップ講座 タブレット活用	情報教育研究会	伊勢市立大湊小学校

乳幼児教育専門講座 報告

乳幼児の育つ道すじ(続編)

-特に3歳児～小学校低学年を中心に-

6月20日(土)、乳幼児教育専門講座を開催しました。

昨年度に引き続き、浜松学院大学短期大学部准教授 志村浩二先生にお越しいただき、「乳幼児の育つ道すじ(続編)」として、御講演いただきました。事例を挙げたり、実演を交えたりしていただきながら、とても分かりやすくお話いただきました。

また、先生のユーモア溢れたお話しぶりにより、和気あいあいとした楽しい雰囲気講座となりました。



参加者アンケートより・・・



満足度100%
の講座でした!

- 昨年度も志村先生の講演を聞かせて頂き、今日はどんなお話が聞けるのか楽しみにしていました。実際の事例から読み取れる子どもの心理背景などを教えていただき、子どもの気持ちになって受け止めること、理解することの大切さを改めて感じ、明日からの保育に活かしていこうと思いました。
- 一つ一つ、うなずきながら聞かせていただきました。今日のこの時間に感謝です。
- 子どもたちが描いた絵に対しての言葉がけなど、もっと工夫をしたり、考えたりしていきたいと思いました。明るくて面白くて本当に楽しい講座でした。ありがとうございました。
- 子どもの絵にみられる心理についてのお話がとても面白く、子どもの心の中にあるものが分かったりするのだと、とても勉強になりました。非言語的コミュニケーションを大事にしていきたいと思いました。子どもの身近な大人として、子どもの気持ちをしっかりくみ取れる存在になりたいと思いました。今日は貴重なお話ありがとうございました。
- もっとお話を聞きたいくらい楽しく過ごせました。(あてられるとドキドキしましたが)勉強になりました。

- 子どもや保護者に関わる時の姿勢を、もう一度考えないといけないなと思いました。参加型で楽しく、あっという間でした。ありがとうございました。
- 「子育てのしんどいことや大切なことの中から、楽しみを見いだせばいい」という言葉は、保育士としてもですが、今、1歳半の子育てをしている母親として、すごく心が軽くなりました。「保育士だから」ということで、「我が子の育て方で悩んだりしない」と思われがちで、またそれが自分を追いつめている感じがすごく嫌だったし、大変と思うことがいけないと思いがちだったけど、「大変なもんは大変なんだ！」と思い、その中から楽しいことを少しでも多く見つけたいです。
- しんどい人に「楽しめ」は難しい。「しんどくて当たり前」という言葉が印象に残った。

志村先生のお話から…

3歳から10歳くらいまでの子どもに関わる大人にとって、絶対必要なことは、子育てが上手になる技術とかじゃなくて、子ども時代に自分が楽しんだこととか、おもしろいと思ったことを、今も大切にできること。それを追体験して、楽しいと思える人が、今、目の前にいる子どもを大切にできます。

- ♥子どもを育てたり、親御さんをサポートしたりする先生方や大人にとって、自分を褒めてあげることは、すごく大切なこと。まずは自分を認めて、OKと言ってあげましょう。
- ♥何でもないことの中で、小さな幸せを見つけましょう。
- ♥今の時代の中での子育ては大変なこと。子どもの発達段階の中で、楽しいこと、喜びを見つけれたら、ラッキー！

先生の言葉に「はっ」とし、「ホッ」とし、元気になりました。



- ◆子どもは、思った通り、感じたとおりに絵を描きます。(知的リアリズム)
けれども大人は、見えるように、見たとおりに絵を描きます。(視的リアリズム)
- ◆子どもの絵を見て、大人の都合で『おかしい。直しなさい』と言うことで、子どもは表現することを嫌がるようになります。
- ◆大人の判断ではなく、その子から、表現したかったことを聞くことが大切です。
『大事な大人が、自分のことを分かってくれた』という経験は、子どもにとってとても大切です。

子どもの描いた絵を具体的に取り上げて、そこにある子どもの思い、それを引き出せる声のかけ方を教えていただきました。



志村浩二先生

第1回不登校児童生徒支援委員会 開催

6月12日（金）、第1回不登校児童生徒支援委員会を開催しました。

一昨年度より「不登校対策ハーモニーハート総合推進事業」が始まりました。委員会では、伊勢市における不登校児童生徒の現状を捉え、教育の大きな課題として取り組みを進めてきました。

昨年度は「不登校問題分析委員会」として、「各校の情報交換」「校区の小中学校の共通理解」「9年間の子どもの支援・見守り」という視点で開催しました。昨年度の反省で、不登校を問題として捉えるのはどうかというご指摘もあったことから、今年度は会の名称を「不登校児童生徒支援委員会」と変更し、より具体的な児童生徒、保護者の支援方法について研修を深めていきたいと思っております。

今回は皇學館大学教育学部 渡邊賢二教授を迎え、「心理教育の理論と実践」という演題でご講演いただきました。



<心理教育～SST 理論>

教育現場で起こっている不登校・いじめ・対人関係のいざごは子どもの「ソーシャルスキルの不足」が一つの要因となっている。不適応行動の未然防止のために、心理教育の重要性が叫ばれ、ソーシャルスキルトレーニング（SST）が実践されてきている。ソーシャルスキルとは、「良好な人間関係をつくり、保つための知識と具体的な技術やコツ」と言われている。従来、SSTは、集団不適応の問題と関連しやすい引っ込み思案や攻撃などの行動を、より集団に受け入れやすい行動へと改善するために開発された心理療法である。

後半のグループワークでは、人間関係が円滑になることを目的として、実際に先生方にプログラムを体験していただきました。参加者全員で「バースデーライン」、2人一組で「背中合わせと向かい合って図形を伝え合う活動」、4人グループで「情報を元に地図を作成する活動」を楽しい雰囲気の中で行いました。

アンケートから

★講演会で印象に残ったことや感想★



満足度・活用度ともに 100%
の評価の講演会でした！

○『ソーシャルスキル』が大切であるということ、あらためて確認しました。先日もクラスでバースデーラインをやりましたが、今日自分もやってみてとても楽しかったです。これからもSGE等、とり入れていきたいです。

○言語10%、非言語90%ということで非言語の大切さを学びました。

カクテルパーティ効果、背中合わせでの状態は、うるさくても声が聞こえる、なるほどと思いました。生徒ともこの活動をやってみたいです。

○『1m』が人と人との普通の距離感で、『45cm』以内に居れるのは仲のよい証拠、触れる距離。

○対人関係のうまくいかない子が多くいることをあらためて実感しました。グループワークでは、自然にコミュニケーションをとり、安心して話ができる場を作っていく必要を感じました。

○不適応行動がおこる前に、クラス作りをしたり対人関係を改善したりすることが大切だと思いました。

○教師が座って話をする場合、生徒も同じように座らせてから話をするということ。足をくんだり腕をくんで話をしない、ということ。子どもの話をさえぎらず、一生懸命聞くということを活用したいです。

